

農業委員会の委員が決まりました

7月28日任期満了により、新しい農業委員が決定しました。

農業委員会は農業者から選挙された委員と、選任による委員とで組織され、農地法に基づく農地の売買の許認可、優良農地の確保と有効利用、地域農業の振興などの重要な役割を担っています。

選挙による委員

輻形 清重	小形山1849番地	重森 昇	小野829番地
小林 義次	つる四丁目1番14号	白井 和夫	境197番地
清水 政雄	夏狩226番地1	杉本 照雄	朝日馬場436番地
小俣 正孝	法能821番地1	加藤 和哉	鹿留621番地
板倉 立行	川茂42番地	高部 公	大幡1686番地
中野 嘉一	十日市場100番地2	相川 勝	鹿留615番地
安富 清	田原四丁目3番37号	三枝 晴雄	鹿留2157番地
小林 圭一	中津森251番地		

選任による委員

山梨富士農業共済組合
鬢櫛 幸次 与繩622番地
五ヶ堰土地改良区
熊坂 周三 田野倉1453番地2
美富士農業協同組合
近藤 英世 古川渡914番地
学識経験者(市議会推薦)
近藤 明忠 古川渡839番地1
小俣 武 下谷三丁目6番23号

自分が住む地域にある学校が、今どういう状況にあるのか、そこに通う地域の子どもの様子はどうか、教員の評判はどうかなど、良きに付け悪しきに付け、無関心ではいられないだろう。まして、我が子をそこに通わせる保護者や家族であれば、それは重大な関心事であり、気になって仕方がないという心境でもあろう。

そのような、地域の人々の学校に寄せる思いを、学校教育への参加や協力という、より積極的な形で実践し、効果を上げていく取り組みが読売新聞に連載されていた。

東京都江戸川区の小学校では、放課後に保護者不在の家庭の児童を預かる「すくすくスクール」という取り組みが行われている。地域住民ボランティアによって、踊りや一輪車、木工などの教室が定期的に開設されたり、地域の大人が見守る中、砂場や部屋に用意された遊び道具で子ども達は自



由に遊ぶ。これを支えているボランティアの代表者は「地域が子ども達や学校の応援団になろうと思つてやっています」とさりげなく語っている。

また、岡山県の中学校では空き教室を利用して、地域の60歳以上の高齢者を対象としたシニアスクールが週3回開かれていた。授業のある日、学校の花壇の手入れなどをしてから、登校する生徒たちを迎え、あいさつを交わしたり、給食もともにする。地域の方々に見守られているという意識が生徒の中に生まれる、シニアの方々のがんばる姿が、子ども達の学ぶ意欲を引き出しているなどの効果が表れている、という。

他に、地域の住民が、交替で学校図書館の運営に携わる札幌市の学校や、定期的に道徳の授業の講師として計画段階から参加する神奈川県小学校など、その取り組みは多



様である。

さて、都留市においても、地域の方々が、地域の学校を支え、活躍している取り組みは多々見られる。登下校の安全確保のために街頭に立つ保護者の方々、講師を依頼され、自分の職業や人生の体験談などを語る人もいる。より良い学習環境を、と校舎内に生け花を飾ってくださるお母さん方など、地域の温かい気持ちに支えられて、学校は成り立っていると感じる。

しかし、多くの人がその思いはあっても仕事を持っていて、時間が無いというのが現実だろう。最近、各学校において、授業や学校行事を地域の方々に開放するという取り組みが、土・日曜日を中心に行われている。ぶらっと、出かけて行ってみる、そんなところから、何かできることがありそうだ。



毎月第1日曜日は「家庭の日」

毎月第3日曜日は「青少年を育む日」 青少年育成都留市民会議編集委員